

日本最大級の歴史百科辞典『国史大辞典』がデジタル化

～辞書・事典検索サイト「ジャパンナレッジ」で公開中～

2010年7月1日より、インターネット辞書・事典検索サイト「ジャパンナレッジ(<http://www.jkn21.com/>)」で吉川弘文館刊『国史大辞典』が公開になりました。また JK セレクトシリーズとして単体サイト「国史大辞典 WEB (<http://kokushi.jkn21.com/>)」を公開しました。

7、8月のトライアル期間を経て、9月1日より本格的に公開されております。その内容や使い方について改めてご紹介いたします。

『国史大辞典』は、安政4年創業の吉川弘文館100周年記念として編纂がスタート。制作に32年の歳月を費やし、執筆陣に3500名の一流の学者を揃えるなど、出版界でも最大級の事業となりました。総項目数5万4000余、全15巻(17冊)からなり、日本史全領域をカバー。また、考古・民俗・宗教・美術・国語学・国文学・地理のほか、隣接した分野からも必要項目を網羅しています。量・質ともに、ほかの歴史辞典の追随を許さない、21世紀になった現在でも、歴史愛好家たちのまさにバイブル的存在です。



JKselect series 国史大辞典WEB
歴史百科辞典の決定版 検索総件数5万8000

入会案内 | FAQ(よくある質問) | お問い合わせ

JKセレクトシリーズ 国史大辞典WEBについて 〔詳細〕

書籍版国史大辞典について 〔詳細〕

国史大辞典ウォーク

● 歴史の深奥をさぐる知識散策

吉川弘文館のPR誌『本郷』(年6回発行)に創刊以来連載されている人気コーナーです。毎回固有のテーマを設定し、それぞれの時代における人間と事象の関わり合いを読み解いていきます。文中に散りばめられたキーワードは、『国史大辞典』の見出しにもなっており、それぞれを結びヒトを手がかりにすれば、さらなる歴史の深みを味わうことが出来るでしょう。あなたも『国史』というフィールドを縦横無尽に散策してみませんか？

[最新の記事を読む](#)

歴史地名ジャーナル

● 地名をゆく:おもしろ! 難読! 話題の地名大集合

第41回 柏原あれこれ(2) 7/23
全国に広く分布する「柏原」という地名について、前回はその読みと地域分布をJK版「日本歴史地名大系」の個別検索機能を活用して調べました。その結果、読みは…
[続きを読む](#)

● もう一つの読み方:地名に刻まれた歴史こぼれ話

第42回 【地名拾遺35】石徹白 New 8/6
富士山・立山とともに日本三霊山のひとつとされる白山から、南方能郷白山まで続く両白山地の岐阜県側に、石徹白がある。…
[続きを読む](#)

大学 公共図書館
研究機関等でご利用の方

[ログイン](#)

お知らせ

▶ 2010年7月15日
『国史』の作り手・吉川弘文館 前田社長にインタビュー！
日本最大の歴史百科『国史大辞典』。その誕生の裏側にはたくさんのドラマがあった——『国史大辞典』編纂スタート時から32年間、『国史』とともに歩んだ編集者人生を、吉川弘文館前田社長が8回シリーズで振り返ります。ぜひご覧ください。〔詳細〕

▶ 2010年7月1日
『国史大辞典WEB』公開！
『国史大辞典WEB』が公開されました。WEBならではの多彩な検索機能をぜひお試しください！〔詳細〕

ニッポン書物遺産
「国史大辞典」篇

▲JK セレクトシリーズ「国史大辞典 WEB」トップページ

◆『国史大辞典』WEB版の特徴◆

□総項目数5万8000

書籍版の本項目約5万4,000に加えて、中見出し約4,000件を検索対象に追加いたしました。

本項目(親項目)が総括的に概観できるように立てられた中見出しの中から、固有名詞・重要歴史用語を中心に約4,000を精査抽出し、WEB版独自の検索単位といたしました。

□多彩な検索機能

ジャパンナレッジのOneLook検索はもちろん、「個別検索」モードで、独自の検索が可能です。

OneLook検索画面右側の「OneLookコンテンツ」の「歴史」にある「国史大辞典」の[個別]ボタンをクリックします。「国史大辞典」を詳細に検索できる個別検索画面に遷移します。

The image shows two parts of the search interface. On the left, a sidebar menu under '歴史' (History) has '国史大辞典' (Great Historical Dictionary) selected, with a red circle around the '個別' (Individual) button. A green arrow points from this button to the main search results page on the right. The main page shows search results for '松平氏' (Matsudaira) with 5 items found. The results list various branches and figures of the Matsudaira clan, such as '1. まつだいらし【松平氏】', '2. おちまつだいらし【越智松平氏】', '3. ひさまつまつだいらし【久松松平氏】', '4. ひしなまつだいらし【保科松平氏】', and '5. あかむつだいらし【三河松平氏(十八松平)】'.

▲「国史大辞典」個別検索画面

書籍本文の構造に即して、検索対象範囲も多様な切り口を設けました。

The image shows the search filter options. Under '検索語' (Search Term), there are three input fields with 'かつ(AND)' dropdowns. Under '範囲' (Scope), a dropdown menu is open showing options: '見出し' (Index), '見出し+本文' (Index + Text), '本文' (Text), '執筆者' (Author), '参考文献' (Reference), and '全文' (Full Text). Under '条件' (Conditions), there are three dropdowns, all set to '前方一致' (Front match). At the bottom, there are '検索' (Search), 'クリア' (Clear), and '表示件数: 20件' (Number of items to display: 20) buttons.

見出し+本文：見出しを含めた項目本文を検索します。

執筆者：執筆者名のみを対象として検索します。

参考文献：参考文献名のみを対象として検索します。

□書籍版の文章記述を視覚的に表現

本文画面右側には目次や関連図版などを分かりやすく配置。さらに、WEB 版ならではの表示機能により、欲しい情報がすぐに明示されます。

JapanKnowledge
国史大辞典
織田氏
おだし

『織田系図』『織田家譜』などによると、平重盛の子資盛の遺子親貞を祖とし、はじめ近江国津田荘に住し、のち越前国丹生郡織田荘の織田綱神社の神官の養子となって織田氏を称したと伝える。しかし織田氏は本来平姓ではなく藤原姓である。永正十五年(一五一八)尾張の守護代織田遠勝が円福寺に出した禁制には「藤原遠勝」とあり、織田信長も天文十八年(一五四九)熱田八幡村中に下した制札には「藤原信長」と署名している。ところが信長はその後平姓を称し、元龜二年(一五七一)白山別宮に寄進した額口の銘には「平信長」と刻まれている。これはおそらく天下統一に乗り出した信長が、源氏の系統である足利将軍に代わって政權を掌握するため、源平交替の思想を利用、平姓を名乗ることとしたものと思われる。その結果平資盛の藩胤に結び付けた系図が作成されたのであろう。したがって織田氏の姓は藤原氏で、越前織田荘を本拠として織田氏を称するようになったと考えるのが妥当であろう。室町時代の初期、織田氏は越前の守護斯波義将に仕え、義将の子義重が尾張の守護を兼ねると、織田常島が尾張の守護代に抜擢され、応永の初めごろ尾張に赴任した。その後守護代織田家は兩派に分かれ、清洲城による織田氏は斯波氏を牽引して下四郡を領し、岩倉城を本拠とする織田氏は上四郡を領し、長年にわたって抗争を続けたが、天文ごろから兩家とも疲弊して勢力が衰えた。これに代わって清洲の織田家の家老で三奉行の一人であった織田信秀が次第に頭角を現わし、他の二奉行を圧倒し、さらに主家を凌ぐ勢いで、隣国の三河や美濃にしばしば兵を進めて勢力の拡張に努め、また皇室の修理費に四千貫を献上するなど、京都との接触にも努めた。その子信長は清洲・岩倉の兩織田氏を滅ぼして尾張一國を平定し、織田家の本流と目されるに至った。信長は永祿十一年(一五六八)足利義昭を牽引して上洛し、京畿を平定して室町幕府を再興した。その後義昭を追放して幕府を倒し、居城を岐阜から安土に移し、東は上野・甲斐・駿河・越前まで、西は播磨・因幡までその支配下に収めたが、天正十年(一五八二)本能寺の変にたおれ、嫡子信忠も二条城で自刃した。継嗣を決める清洲会議では信長の第二子信雄と第三子信孝が争ったが、羽柴秀吉の推す信忠の子秀信が家を嗣ぎ、文祿元年(一五九二)岐阜城主となって十三万石を領した。しかし関ヶ原の戦いで西軍に推して家は滅び、江戸時代には信雄の子孫と信長の弟長益の子孫が諸侯として栄えた。

【参考文献】
『織田家雑録』、『寛政重修諸家譜』四八八、奥野高広「初期の織田氏」(『国学院雑誌』六二九)

(一)出羽国天童藩主
信長の第二子信雄は、信長の死後清洲城を与えられて、尾張・伊賀・南伊勢五郡を領したが、天正十八年(一五九

目次:長文項目の中見出しは「目次」として一覧にしてあります。目次と文中の見出しは相互ジャンプが可能です。

関連図版: 図版名をクリックすると表や系図が別ウィンドウで表示されます。細部が判別しづらい場合は、画面右上の「**精細画像(PDF)**」をクリックすると PDF ファイルが表示されます。



▲図版「織田氏系図」

◆ジャパンナレッジに搭載されることによる利用価値の拡大◆

『日本大百科全書(ニッポニカ)』『日本国語大辞典』『東洋文庫』『日本歴史地名大系』など、出版社の枠を超えてジャパンナレッジに集成された辞書・事典、叢書と串刺し検索できるため、『国史大辞典』の利用価値もまた、飛躍的に高まります。

「ジャパンナレッジ」および「国史大辞典 WEB」に関するお申し込み、お問い合わせ*は、株式会社 紀伊國屋書店 電子商品営業部(電話：03-6910-0518、ファクス：03-6420-1356、e-mail：online@kinokuniya.co.jp)までお願い致します。

*お預かりした個人情報は、弊社規定の「個人情報取扱方針」http://www.kinokuniya.co.jp/06f/gaiyo6.htm に則り、取り扱わせて頂きます。